

目標達成計画

作成日: 平成 30年 7月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37	利用者目線で無く、職員目線での観点から介護が提供されており、利用者の方が職員に気を遣っている現状がある。支援を受けたい旨を表明してもほかの業務中の場合はすぐに受けられない事があり、自分から言い出せないでいる利用者の方もいる。	管理者は、介護職員に最も優先される業務は「今利用者に必要な支援をそのときに提供することである」という、単純だが明確なこの命題を徹底して理解させるように指導しなければならない。この事はあらゆる介護職の業務のうち最も基本にあることなので、全職員に身に付けてもらうように努める。	1.全体での話の中で常々表明し周知を図る。 2.個別の事例の中で例示し、理解を進める。 3.現場で遭遇した事案にはその時に話す。 4.自分や自分の家族に置き換えた視点で話す。 5.職場内外での社会資源や時節なども捉えて対応していく。 6.職員に個人面談などの機会を設けて聴き取りをし、考えを聞く。 7.日常から浮かび上がる問題点と、聴き取りから見える課題を総合し、問題解決に向けた原因を特定して、個別にも総合的にも解決に向けた働きかけをしていく。	12ヶ月
2	17	1と関係する部分もあるが、利用者主体でない介護支援を提供していることもあるので、利用者のニーズや家族の要望を的確に図ることが出来ていない場面が見られるため、これを改善し、利用者や家族が持っている要望を速やかで適切に汲み取り、必要な支援が出来る事業所にしなければならない。	利用者や家族が望む介護が必ずしもその方に必要な介護とは一致しない場合もあるが、それだけにこちら側からの働きかけを密にしていき、ニーズを掘り下げ、その人らしい生活に必要な支援とは何かを、利用者個別に理解し判断でき、そのためのサービスを提供していかれるように努める。	1.利用者対応が一番優先される業務であると気づくための啓発・指導を行う。 2.声なき者の声を聞く気付きを疎かにしないように、要望を”待つ”姿勢ではなく、こちらから進んで得ようとする姿勢を身に付ける。 3.現在の利用者の状態を観察し、不便や改善できる所はないか、常に状態を見分ける習慣を身に付ける。 4.介護者がよく知っている利用者への支援の情報を個人だけのものにせず、職員間、事業所内で共有する。 5.利用者へのサービス提供のうち、初めての試みにはリスクが伴うと考え、一人ではせずに、必ず複数の職員で話し合い、検証して行う。	12ヶ月